



TOHOKU

EPO通信

[エポ]



東北環境パートナーシップオフィス



平成 29 年度 第 4 回みちのく薪びと祭り in 宮城なるこ

CONTENTS

- **特集**
東北の未来と、いまと世界をつなぐ羅針盤、SDGs
- **ECO & 復興支援グッズ**
- **東北6県 EPO トピックス**

東北環境パートナーシップオフィス(EPO東北)とは

東北環境パートナーシップオフィス(略称:EPO東北)は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取組創出のきっかけ作りを担います。たくさんの方がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さまのパートナーシップ作りを支援します。

東北の未来と、 いまと世界をつなぐ 羅針盤、SDGs

— 評価をしない、評価軸を提案する「SDGsとうほく」 —



オフィス Beni代表 **べに むら あき こ**
SDGsとうほくプラットフォーム代表 **紅 邑 晶子**

■SDGsとの出会い

2016年の3月13日の仙台で「Humanitarian Innovation Forum Japan 2016」が開催されました。開催にあたって主催者の一つジャパン・プラットフォーム(JPF)共同代表でグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンの代表もされている有馬利夫さんからご挨拶がありました。「災害時や防災・減災に向けての取り組みでは、企業等の優れた技術やノウハウを人道支援の課題に適用し、継続的にイノベーションを生み出せる。また、2015年9月に国連で採択されたSDGs（Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標）でも、企業の積極的な取り組みが求められている。」というお話でした。その時、初めて見たのが世界を変えるための17目標のSDGsのカラフルなアイコンでした。

翌年2017年2月。オフィスBeniとして動き始めたこのことです。ご挨拶に伺った先の会社で思いがけずに「SDGs」の話が飛び出してきました。その会社は大手企業のCSRレポートなども作成していたのですが、最近では「サステナブルレポート」といって、SDGsと事業を関係づけながらレポートを作成していました。いただいた冊子のあちこちにあのカラフルなアイコンが顔を出しています。固いイメージになりがちなCSRレポートが

活き活きとした読みたくなる冊子に生まれ変わっていました。その後、JANICというNGOでいただいたNGOガイドブックは、まるごとSDGsをベースにした団体紹介となっていました。団体ごとに17目標のどの番号に関連した事業に取り組んでいるのかが一目でわかるように示されているパンフレットを見て、これなら地元の企業やNPO、行政の事業の取り組みをSDGsという共通目標を使って紹介できるかもしれないと閃きました。やがて、SDGsとの出会いは、これまで出会った人たちとの新たな結び直しの機会を加速しました。経団連の知人との再会もEPO東北さんを訪ねることにつながりました。久しぶりに訪ねたEPO東北の皆さんにSDGsに関連する学びの場を作りたいという相談をしたところ、ちょうどSDGsをテーマとする企画を検討していたそうで、月1回の勉強会の開催に協力いただけることになりました。

■新しいものさし、SDGs

SDGsはまだまだ認知度の低い言葉ですが、東京では昨年からの企業のCSR担当や環境関連との関係者、あるいは人材育成プログラムとして盛んにワークショップやセミナーが開催されています。このようにSDGsが注目されているのは、国の政策として推進するという動きだけではなく、経済界も持続可能な企業活動を可能にするための試金石という認識を持っているからです。といっても、CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）やCSV（Creating Shared Value：共通価値の創造）の取り組み方やその成果をはかる指標はいままでのため、企業にとって取り組みにくいテーマとされています。その結果、企業向けにCSR的な提案をしても、取り組む意義や価値を理解してもらいにくいのが現状です。CSRレポートもいつの間にか作ることが目的になり、活用しきれないツールになっていることも少なくありません。その原因は、やはりCSRについて組織





内での理解不足と取り組むべき指標をつくる組織体制がないことにあると思います。では、指標はどうやって作ればよいのか。そのヒントとなるものがあれば、課題を解決する計画や成果目標が見えやすくなる。SDGsはまさにその道具として活用できるのではないだろうか。SDGsは組織を評価する新しいものさしになるのではないかと思います。

SDGsには2030年までという期限があります。そして具体的な17の「目標」、各目標を細分化した169の「ターゲット」と「指標」が示されています。17の目標が目指すところは、①世界の貧困をなくす、②持続可能な世界を実現するという、2つです。この17の目標は、5つのP（People:人間、Prosperity:繁栄、Planet:地球、Peace:平和、Partnership:協働）に大別されます。また、企業向けにはSDG Compass（SDGsの企業行動指針）というものがあり、SDGsを企業戦略的にどう活用したらよいかというガイドラインが示されています。このようなゴールや目標、ガイドラインという道具が示されていることは、企業だけでなく様々なセクターがSDGsを理解し取り組むことのメリットや組織経営に反映しやすいことにつながります。これなら、ガイドラインを手掛かりに自らの組織の指標づくりもしやすくなります。

■知る・学ぶから、行動するSDGsへ

SDG Compassのステップ1は「SDGsを理解する」となっています。SDGsを理解せずに17目標を事業に結び付けて事業計画を立てるとするのは免許を持たずに車を運転することに似ています。そこで私は、まずステップ1として、17の目標を理解するところから始めようと有志による勉強会を始めました。自治体職員、NPO関係者、企業や大学といった文字通りマルチセクターの参加者により、2017年6月13日（火）第1回目の勉強会がス

タートしました。勉強会では、17の目標を自分ごととして、次に仕事との関連、そして地域社会や世界の課題としてという様々な視点で参加者同士の意見を深めていきました。ゲストスピーカーをお呼びしてゲストの方の組織の事業に絡めてSDGsとの関連などお話しいただくこともありました。10月にはレゴブロックとカードゲームによるSDGsのワークショップも開催しました。その年の12月はある企業の役員・職員関係者を対象にしたSDGs学習会とワークショップ、行政職員研修の中でもSDGsを活用した自己紹介といったことも行いました。

SDGsについて、様々なケーススタディを通じて学びあうことで、勉強会は他人事ではなく自分事としてSDGsをとらえる場となりました。これからは、具体的な事例をつくることも視野に入れた活動をしていきたいと思っています。参加者が何をテーマに行動したいのかを選択し、この勉強会で出会ったメンバーがサポーターとなり、一緒にSDGsを実践する取り組みが生まれる。そういう動きをこの勉強会から創り出したいと思っています。そこでこの勉強会をベースに「SDGsとうほく」という組織の設立を検討しています。「SDGsとうほく」は、SDGsを活用して「東北の未来と今と世界をつなぐ羅針盤」の役割を果たしていくものです。東北らしいSDGs、持続できる循環社会へのシフトをめざして、産・学・官・民のマルチセクターによる連携から、東北ならではのリソースを活かして地域の課題を解決する事業ユニットを生み出したいと思っています。また、企業や自治体の持続可能な活動を続けるため、SDGsを活用した組織の再構築や評価をするための評価軸をつくるサポート役も担いたいと思っています。

「いま」と2030年のゴールをつなぎ、そのプロセスをデザインしながら、行動していく道筋を提案する「SDGsとうほく」。東日本大震災を経験した東北から、SDGsという世界共通言語を手掛かりにこうありたい地球の未来の形を世界に発信していきたいと思っています。



ECO&復興支援グッズ

環境再生活動の支援につながる、または復興支援につながるエコグッズ（マイバッグなど）

01. つながりボールペン

ボールペンには、カラフルな「さおり織り」の糸が巻かれています。コーヒータイトに通うメンバーが、糸をひとつひとつ丁寧に巻いて作っています。ペンの軸はボール紙（再生クラフト紙）で作られ、優しい感触と風合いで、使い心地もやわらかな心やすらぐ1品です。

■問い合わせ先/**NPO法人コーヒータイト**

二本松市本町2丁目3-1 二本松市市民交流センター内
TEL：0243-24-8081
FAX：0243-24-8082
Email：coffeetime@plum.ocm.ne.jp



■価格 1本 220円（税込）

02. 縁起菓子ふくふく

ふくふくは、大吉だるま（カカオクッキー）、お目出鯛（カレークッキー）、馬九行久（うまいく：キャラメルタルト）、種まきうさぎ（卵不使用アーモンドクッキー）などの縁起の良いお菓子の詰め合わせです。お菓子をつくる福祉事業所、箱を折る福祉事業所、発送を担当する福祉事業所、営業をする福祉事業所など、12の福祉事業所が協力して生産販売を行っています。ぜひ一度、ご賞味ください。

■問い合わせ先/**特定非営利活動法人しんせい**

〒963-8022 郡山市西の内1丁目25-2
TEL：024-983-8138
FAX：024-983-8138
Email：salon.shinsei@sky.plala.or.jp
<http://shinsei28.org/>



■価格 ひと箱 16枚入り 2,160円（税込）

03. コットンベイク

東日本大震災後、耕作を放棄された農地を活用し、福島浜通りを中心に有機農法でコットンを育てる取り組みが始まりました。地域内外のたくさんの方々の応援を頂きながら育てられたコットン。その種付きワタを、地域の女性たちの手で人形の形に仕上げました。キャップをかぶった子供やエンジェル、ペンギン、猫、フラガール、ライオン…。バリエーション豊かな仲間たちが生まれています。

■問い合わせ先/**特定非営利活動法人ザ・ピープル**

福島県いわき市小名浜君ヶ塚町13-6
TEL：0246-52-2511
FAX：0246-92-4298
Email：the-people@email.plala.or.jp
<http://npo-thepeople.com/>



■価格 860円～

青森 AOMORI

素人が始める現代キコリ。素人目線で森を多角的に多面的に。

未経験者にも、間口を広くガーデニングのような感覚で森に関われるよう、カジュアル（気軽さ）・ポップ（可愛さ愉しさ）も忘れない。

青森フォレストワーカーズは、2013年に八戸、三沢市民を中心に結成された約15名、男女・プロアマ混在の「森林業」「キコリ」普及団体です。「森」、「木」との多面的な付き合い方を余すところなく実践し、人の営みにカジュアルに溶け込ませる事を目的としています。よって、複数のプロジェクトを同時に行っております。

薪の会や木質エネルギー普及：現在、薪販売と会員への分配。今後、原木やストック薪買取りも含めた薪ステーションの開設予定。間伐材利用として、青森バイオマスエネルギー推進協議会「木の駅」を通じ、ペレット燃料



5年間講師、スタッフとして参加（安全な伐木、集材などをレクチャー）。

環境保全の活動：休耕地整備のボランティア（柳、ニセアカシア等の除伐、下草刈り）。北里大学と共同による農業用河川の保護（現地間伐材を使い木柵を設置）。

地域や都市と繋げる活動：おいらせ森のようちえん



へ（昨年度は約40㎡のスギ材出荷）→同協議会主催によるキコリ養成講座では、

主催こともキコリ体験講師。地元FMで「森のラジオ」を4年間、



パーソナリティと制作を。山菜取りと現地食事会イベント「おいしい森」を主催。環境イベント・アースデイ青森では薪割りや木工体験のブースほか事務局運営を担う。

今後も自伐・自伐型問わず森林経営や副業・週末林業を応援する団体として、



森林業を通し、おおらかで優しい社会づくりを目指して活動してまいります。

青森フォレストワーカーズ

■〒039-1161 青森県八戸市河原木字小田上9-43

■TEL：0178-28-7379 ■Email：afwkitohito@gmail.com

岩手 IWATE

自然に優しい薪ストーブのある暮らし方で提案

荒廃林や放置林を再生・整備・保全しながら薪火のある暮らしを薪ストーブとともに。

弊社は主に欧米や国産の燃焼効率の優れた薪ストーブとそれらの機能を発揮させるための断熱二重煙突の施工を通じ、あわせて県内に豊富ながらも放置されている雑木林等の整備施業活動を実施しながら薪エネルギーの利活用普及を行っています。近年、岩手県内にも松枯れやナラ枯れ等の老齢木を中心とした樹木病害浸食が進んでいます。



数十年以上もの放置や放棄された森が病にかかる前に適切に間伐を計画的に行うことが求めら

れています。弊社は地域の里山保全活動団体とも連携し、薪ストーブユーザーを募り、森の再生を目的にした選択伐採等の施業を行い、自然エネルギーのひとつである薪利用の普及に取り組んでいます。長年放置していた私有林の所有者に協力を得て、適宜伐採をして、計画的に安全に楽しく森との関わりを深めております。1年のうち半年間暖房が必要な寒冷地である岩手県は足元にある森資源を永続的に循環再生させながら低炭素社会への貢献を



しながら美しい森づくりを続けてまいります。近年では高性能高燃焼効率の薪ストーブも多数開発普及されています。永くご利用いただけるようにしっかりと施工で、安全快適にご利用いただけるように努めてまいります。



フォレスト岩手きたかみ
http://www.forestiwate.jp

■〒024-0331 岩手県北上市和賀町横川目37-57-5

■TEL：0197-72-4032

■FAX：0197-72-4025

■Email：niconico-forest@forestiwate.jp

宮城 MIYAGI

木や樹に関わる様々な活動を通し、“森の循環の復活”を目指しています

木を伐って、木を燃やそう！木を使おう！木で作ろう！木で遊ぼう！そして木を植えよう！をスローガンに日々活動を展開しています。

木を伐って、木を燃やそう！木を使おう！木で作ろう！木で遊ぼう！そして木を植えよう！をスローガンに日々活動を展開しています。

①除間伐を中心とした森林保全・イグネ伐採
山主と契約を交わし、住宅素材やホダ木等森林資源の生産を通じて、山に優しい施業にて小規模自伐循環型林業の確立を目指す。昨年からは、岩手県岩泉町の広葉樹林にてホダ木を生産しながら資源循環が図れる森林整備に着手



②木材加工 & 体験施設「間伐材工房元樹」及び「間伐材ステーション」の運営



③薪・薪ストーブの普及活動と薪作り
(木育活動と運動)

間伐材や林地残材の消費拡大を図る為には、薪燃料として一般家庭で大量に消費する流れが復活すればとの想いで、針葉樹も焚ける厚鋼板製の薪ストーブを地域の鉄工所と共に開発、様々な場面で普及活動を実施



④間伐材加工品の開発～加工～販売
(主に木育用遊具・玩具)

森林整備過程で出る間伐材等、自己調達した木材の加工や木工品の製作を、5年前に立上げた工房にて実施。木育用玩具や遊具・インテリア・雑貨等定番作品の他様々な受注製作にも対応し、薪や工作材料として一般の方にも提供



の製作を、5年前に立上げた工房にて実施。木育用玩具や遊具・インテリア・雑貨等定番作品の他様々な受注製作にも対応し、薪や工作材料として一般の方にも提供

⑤樹を使ったワークショップ・出前講座の開催 (木育活動)

子供達や親子を対象に、木の需要者を増やすキッカケ作りとして、森遊びを含め木を使った各種体験会やワークショップを実施、行政機関や連携団体が主催する環境イベント等にも積極的に参加



特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹
<http://fs-genki.com/>

〒989-504 宮城県栗原市若柳上畑岡大立85-3 ■TEL: 090-9631-1610
■FAX: 0228-24-7208 ■Email: npo@fs-genki.com

秋田 AKITA

山の森・海の森・ニツ森づくり

～白神山地 植えようブナを 育てようあなたの心～

私たちは、平成5年12月に世界自然遺産に登録された白神山地において「山の森」を復元する、そして保全していくことにより、地域のシンボルの魚であるハタハタが産卵する藻場「海の森」の再生につなげ、良好な環境を次世代へ継承することを目的に平成9年5月から活動しています。



「山の森」と「海の森」は、川で繋がっています。白神山地のブナ林の腐葉土層を通して流れる水は、ミネラル分が豊富でプランクトンを育て、ハタハタが産卵する藻場「海の森」の再生につながっていくことから、植樹活動を平成12年から展開しています。

この植樹活動は平成29年で18回目となりました。植栽本数は他の団体から依

頼られて植樹したのも合わせると約13,873本となります。18回の植樹で少ない本数と思われませんが、「山の森・海の森・ニツ森づくり」のキャッチフレーズのもと参加者一人3本の植栽とし、木が3本で「森」になるという考えで植栽しているとともに、ハタハタ資源の回復を図るため、山の森の再生により、海の森(藻場)の保全回復を図ろうという「山と海の二つの森」の再生でもあります。

また、植樹するブナの苗木は、できるだけ購入せずに、ブナの実を拾いポットに種まきをし、さらに山採り苗を3年から5年をかけてぶなっこランドで育て、山に返すことにしています。世界遺産と



なった白神山地の保全にも繋がっていくことと考えられます。



また、平成12年の植樹当初から調査研究のため東京農業大学生からスタッフとして参加していただいています。

最後に、毎年、植樹の前日に「来よう！黄葉ニツ森へ」という白神山地のブナ林を堪能する観察会を実施します。白神山地の壮大なブナ林を観察し、森林の持つ多面的機能を体感していただきたいと思

「2018年植樹ボランティア」は10月7日(日)に開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

特定非営利活動法人白神ネイチャー協会
<http://www.shirakami.or.jp/~asna/index.html>

〒018-2632 秋田県山本郡八峰町八森字三十釜133-1 ■TEL: 0185-70-4211
■FAX: 0185-70-4214 ■Email: asna@shirakami.or.jp

山形

YAMAGATA

荒廃した里山を花いっぱい森に！

沢山の地元住民や県内外の人が訪れ、賑わう里山になる活動を続けている。

子供たちの遊びの場でもあった里山は、各集落の過疎化や高齢化などで手入れされず、ナラ枯等によって荒廃する一方で大きな問題となっている。このような状況を踏まえ、平成21年より「ふるさと山の会」では、①荒廃している里山に花いっぱいの森林公園を創造する。

②子供から大人まで楽しめる森林レクリエーションの場として提供する。これら二つを目的に掲げ活動をしている。また、森林再生によってCO2吸収による地球環境保全のほか希少動物が安心して生息できる環境づくり等の社会貢献につながる活動



植樹場所まで桜苗木リレー



小学校4年生植樹体験

を行い、「花いっぱい森」にしようと10haの山を借り受け実施に移した。

朽の木や桜の木等を植樹するため、各機関の助成金を活用し、地域住民の協力により整備を行い、町内外や地域住民の参加による森づくりを呼び掛け、沢山のの方々の協力を得て毎年5月上旬頃に植樹を行っている。昨年（平成29年）、雨の中にも拘わらず35名の参加者全員で苗木（オオヤマザクラ）を植樹場所までリレーで運んだ。2人1組に分かれて、目印（しの竹）の場所に植林して頂いた。毎回のように参加してくれる人や企業等、ありがたいも



竹トンボ作り

た植樹体験でも2人力を合わせ大きな桜の苗木をやっと植えてみんな満足して頂いた。これまで、里山での遊びや朴の葉、笹の葉等を活用した伝承文化の体験活動も行ってきしたが、花いっぱい森づくり同様、後世に残せるよう活動を続けている。



朴の葉飯作り

ふるさと山の会

<http://www.furusato-yamanokai.com/>

■〒999-5521 山形県最上郡真室川町大字大沢5599-2 ■TEL：0233-63-2708

■FAX：0233-63-2708 ■Email：info@furusato-yamanokai.com

福島

FUKUSHIMA

再生する松川浦を見つめながら多方面からのアプローチで環境保護

2000年の創設以来、松川浦とその周辺の河川の水質などに注目。震災のかく乱を経て様変わりした松川浦の新たな生態系を見つめながら、活動を続けています。

松川浦は5つの河川が流れ込む633haの潟湖で、震災前は東北最大級の干潟が出現する所でした。また植物では尾瀬に次ぐホットスポットといわれるほど希少種が見られ、環境省の「重要湿地500」や「ラムサール条約の潜在候補地」に選定されています。

ところがこの生きものたちの楽園は東日本大震災の津波で大きく破壊されてしまいました。砂洲や堤防が決壊、松川の流出、地盤沈下や砂の移動で干潟が大きく消失し、現在も復旧作業の途上にあります。

しかし自然の回復力は素晴らしく、生きもの数の回復はまだですが、種類はほぼ戻っていることが福島大学・東北大学などの調査で分かっています。ただヒヌマイトトンボ（絶滅危惧Ⅰ類）

は、毎年調査を重ねても、まだ再会できていません。また鶺鴒ノ尾地区に震災前存在しなかったウシガエルが発生、希少昆虫の保護のために専門家とともに駆除活動にも取り組んでいます。そんな中、60年代に消滅したウミミドリのような植物が、津波で洗われた表土の下から復活した嬉しいニュースもありました。

高上げ工事で松川浦の護岸がセメントで覆われてしまったことは大変悲しいことです。それでも行政サイドとの交渉で、大洲海岸に開発をしない自然保護区域が設けられたことは大きな前進でしょう。またはぜっ子俱

楽部は0.45haの国有林の管理も任され「松川浦希望の森」として、植林・育林も進めています。今後も松川浦の生態系を見つめながら活動を続けていきたいと思っています。



はぜっ子倶楽部

<http://hazekkoclub.com/index.html>

■〒976-0022福島県相馬市尾浜字南ノ入241-3 ■TEL：0244-64-2042

■FAX：0244-64-2042 ■Email：cxh05551@nifty.com

● Web-Siteのご案内

- ◆ お役立ち情報：環境助成金情報、エコの每日一覧
- ◆ 随時更新：お知らせ、活動報告、日記

お知らせページでは、環境省や東北6県のイベント・募集情報を告知しています。スタッフによるつれづれ日記、被災地や出張先のレポートが人気です！

● EPO東北オフィス利用案内

◆ 各種パンフレットやイベントチラシの設置

環境イベントや助成金等の募集チラシ、環境にまつわるパンフレットを設置しております。自由に閲覧いただけますのでお気軽にお立ち寄りください。また、チラシ等設置をご希望の方は持参または郵送でお寄せください。

◆ ミーティングルームのご案内

環境活動、震災復興支援活動のミーティングや小規模セミナーにご利用いただけます。ご希望の方は電話・メール等で事務局までご相談ください。

- 開館：月～金（祝日を除く）
- 利用時間：10:00～18:00
- 利用人数：12名まで

● EPO東北のパートナーシップ団体

EPO東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター	http://www.eco-aomori.jp/
ECO リパブリック白神	http://shirakamifund.jp/
環境パートナーシップいわて	http://www.iwate-eco.jp/
環境あきた県民フォーラム	http://www.eco-akita.org/index.html
あきた地球環境会議	http://www.cееakita.org/
環境ネットやまがた	http://eny.jp/
うつくしまNPOネットワーク	http://www.utsukushima-npo.jp/
せんだい・みやぎNPOセンター	http://www.minmin.org/
環境会議所東北	http://kk-tohoku.or.jp/
仙台広域圏ESD・RCE	http://rce.miyakyo-u.ac.jp/
環境パートナーシップ会議	http://www.epc.or.jp/

EPO東北は東北地方環境事務所（環境省）と公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）が協働して運営しています。



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎1F
TEL 022-290-7179 FAX 022-290-7181
E-mail: info@epo-tohoku.jp URL: <http://www.epo-tohoku.jp/>

勤務時間：月曜～金曜日【9:30～18:00】
閉館日：土日祝日・お盆・年末年始

発行日：2018年2月



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

メールマガジン登録者募集中！

発行頻度：第2週と第4週毎月2回

登録料：無料

内容：助成金・イベント情報、EPO東北の活動情報など環境にまつわるお知らせ

登録方法：EPO東北のウェブサイトより



環境イベントの告知を行います！

催事情報をEPO東北のウェブサイト、メールマガジンなどでご紹介させていただきます。また、チラシを持参または郵送いただいた場合は、オフィス内に設置いたします。環境イベントを企画している皆さま、ぜひ事務局まで情報をお寄せください。